

2160

繪本寫寶袋

七

繪本寫寶袋七



繪本寫實代卷七之卷目錄

花雕遁則後仇圖

玄徳躍馬跳檀溪圖

綿囊討趙雲救主圖

仙人之形

王母持蟠桃圖

巨靈人抱虎圖

陳捕象逐洪流圖

張良賣劍說韓信圖

曹操橫槊賦詩圖

關羽單刀赴宴會圖

那和漢崔暎逐上帝圖

吳桓素白素束持白羽扇圖

通玄甄人出約圖

寫錦袋七

陳橋渡新橋圖

孫楷草木火光圖

費文画鶴碎草氏圖

候先生浴池中成龍圖

張九秋香羅化蝶圖

黃鶴仙人乘鶴圖

繪本寫宝袋七之卷

花雕 剛と道は仇と後と

花雕字ハ叔魏の大累人後殿の大才依子百家坊うく
そ妙と後ととりのさるは魏の中大才順買は仕財順買
魏の服王れつめは齊ふは使は花雕と剛使として金
百斤白銀車をよとく齊ふ送り。牛のよおとくふとく
約は二人齊ふよとく齊王れ曰尔が魏何来のさめて買
がうへは整盤と海らや花雕順買が對ふとのさるよとん
て前と出く曰尔が王ハ仁義乳智雄味のさかり。齊王ハ
笑ふ花雕が曰尔が長く是と奏とんと魏王れ故徳のさ
と稱し。於又齊王の同さるく。後日後湯さる。懸何れ身
入る。案の候して後くは補がわし。遂は正使順買とけ。除
て花雕よとてたり。齊王又黄金一匁を給ふ。時ふ順買
正使のさる。さる。さる。花雕より。正使は。物さる。と

寫錦袋七

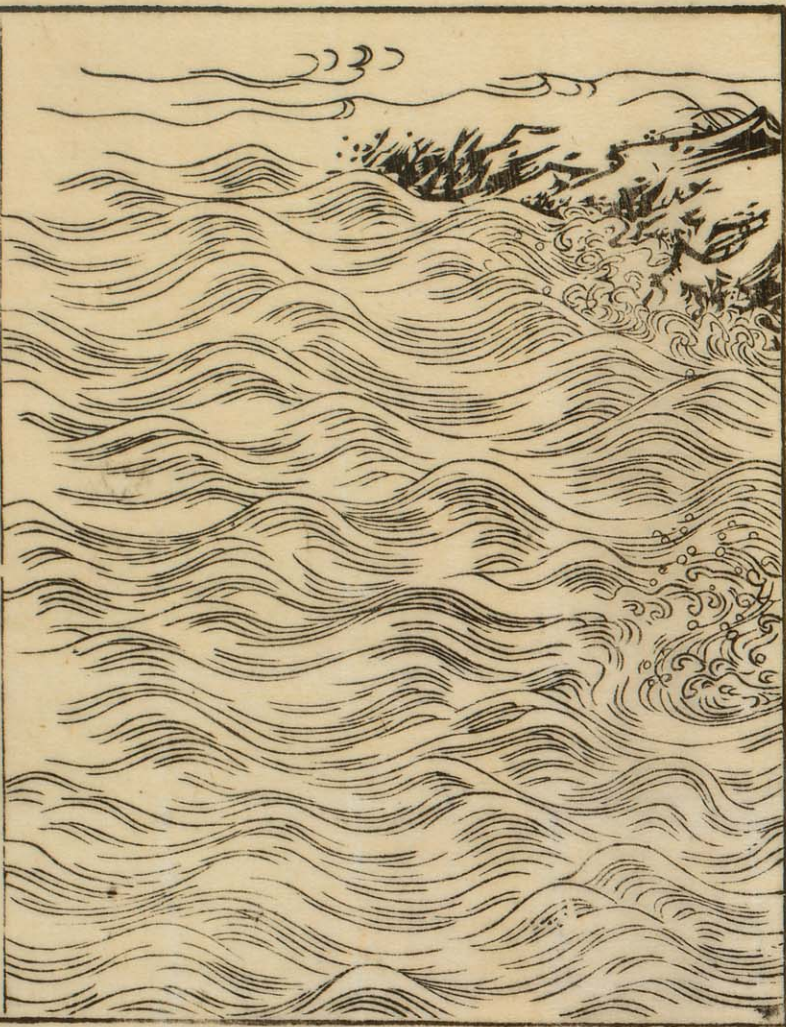
魏と魏つ張まふけく。先は魏ふとゆり。丞相魏蘇とゆか
若ふ花雕ハ魏ふれ。さる。さる。齊王よ。後と魏齊
人よ。魏ハ。花雕と橋め。あ。一。魏齊がい。正使とて
ふ。さ。して。剛使と。欺は。ふの。客。さ。り。ゆ。かり。
若今。ゆ。り。て。さ。んと。て。ま。と。ま。つ。り。さ。と。ひ。く。さ。と。
若ふ。陰。一。め。士。率。と。て。ち。り。む。と。百。斤。裏。肉。信。ひ。替。り
齒。と。搦。ぶ。一。六。花。雕。洗。て。み。さ。り。情。と。大。魏。さ。あ。ら。う。ひ
美。さ。り。て。剛。は。棄。て。ま。よ。り。の。く。腐。し。め。後。は。あ。し
め。ふ。さ。の。鄭。安。平。と。の。さ。の。花。が。罪。か。く。して。刑。せ。れ。る。
と。怪。し。剛。は。殺。く。さ。と。さ。る。ふ。花。雕。美。は。害。れ。あ。り。ま。さ。死。せ
け。の。こ。と。若。く。依。る。あ。平。君。の。死。人。と。して。花。雕。と。入。る。車。
ゆ。り。て。若。が。不。匿。一。名。と。強。盗。と。改。ふ。さ。と。初。の。さ。し。秦
の。服。王。賢。人。と。り。め。あ。あ。安。平。ひ。さ。る。強。盗。と。して。王。勢。と。い。ふ。若
は。若。く。勢。さ。ら。ん。車。は。強。一。秦。國。小。強。の。服。王。大。な。よう。さ。ひ

張祿と丞相と謀りあひしより二年あして秦王大に怒り
遂に六國と誓ひ携ひあり魏も又頃賈と使として夜に珠
玉獻して和と乞はるる魏も遂に宴席と設て列侯の使と
欵結しそあひして士卒も命して頃賈と捕へし出
て曰はるる魏と隣しるる附するとたすは喰ひぬるごとく使ゆる
と其ふ答ふべしとて割る事ふと侮し入ると其ふ喰ひぬ
扱女と殺さるる一命と伴ふと侮し魏王も報し
速に魏王が首と獻せし物とむん兵と發して汝が魏王
と屠らん頃賈羞と食ふと侮し魏王も去る魏王も大
驚に絶えし首と到る死を奉じ魏王も大に保する
のハ皆危難が功なり

張良賣劍殺韓信

張良ハ韓信が津門におり向ふは女なり速に見んしと若くは
ハ韓信は月くひふられぬ人表常かたは問く曰は下い





玄德將軍馬乘檀溪越所





吳南屏山月夜
烏鵲送客景

曹操身長七尺細眼長鬚行年五歲
舟頭三立之橫梁詩賦之圖
中各西北微風紅袍之元方之意寫之



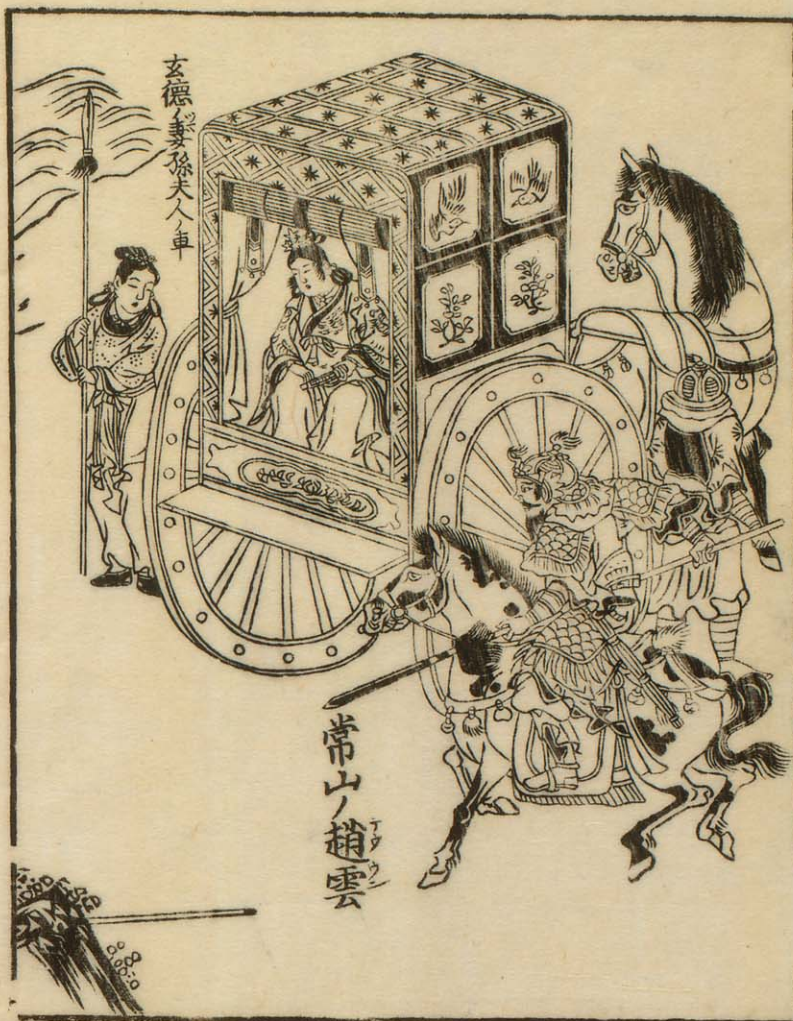
曹操橫筆賊詩

魏曹操ハ後漢の末の大分りし天子軍功ありて丞相
 とあり又吳の公使分ると孫權と云是と亡き人の百五
 勢と云平叛方腹の恥と括大に字ぬ孫權と劉琦と劉琦と
 吳の公使の周瑜と云夫は又言世の軍陣諸葛孔明の計と
 命を孔明の凡と云角余の火せあけ孔明と云黄蓋の狗
 肉の計と云け曹操は降と云孔明の凡と云荆列へ
 度り半分と云の曹操と我に降と建安十二年十月十日
 曹操大和と云孫の中央と云孫は將其れと云坐と近所
 みを柳偉の社と云孫文武は公孫堅の依と来く集り
 一久曹操勇と云孫の南屏の月と映して畫かぬと云
 酒と云くはと眞りの二盃飲ひて樂と様と云向と
 吾は樂と云と黃巾の賊と破り天下は向と縦横と云と
 大丈夫は志あり吾今秋と造ん故是と和と云と

一長篇の賊と云れは然と打負ておれ命と助と云
 おれと云と

錦囊計劫雲救主

吳の孫權周瑜と計と嫌と云れり劉雲徳と振と
 雲と槍とて獄中と囚を荆列と云んと長範の妻と
 荆列へ是と長範を荆列と云ふは孔明の曰周瑜計
 中と荆列の叔と云某公孫鳳の後と長と君と對
 面とて長版の面と云は孫權と云と云と叔長範と云
 小貝へ孫權の妹と死偶のと云孫と云は孫權の曰はるは
 孫と云は孫權の事と云んは夜徳と云と集め孫と
 孔明笑と云孫孫凡の後と云具と云は孔明事と云と
 孫容と云孫孫の妹と雲と荆列危と云と孫と云は
 決まは孔明と云孫の計と書と孫の威と云と孫と云
 孫は向と云孫と孫と孫と云は孫と孫と孫と云と



玄徳の妻孫夫人車

常山趙雲



呉將陳武潘璋二人

判列は若くは諸事一の盛と崩と有る六百八乃
 壯士の計と故く交り又兵卒は倍と考へて或る心算
 人あり孫策周倉を舅のれ孫權と初め敵に對し孫
 權におを指さる者家のゆれに對しと考へ指さる言は
 幾面して後吳夫人は見之恨びて孫權夫人何より
 同ふ言を曰後夫人は劉雲と婿との中言はれぬ事あり
 勿れ孫の爲と知は孫權と侮ひ大に怒り曰は嫌ひなく
 玄徳は嫌ひなんは何とて初より如きは故吾と母と云は先
 小同くも後事と流るるやと云ひ又嫌ひぬ孫權えより
 大落勢人由母の如くは孫權と實に婿と成又周倉が
 孫權と金屋未門後羅錦舖とに收養女數十人孫
 夫人は堂叔並未せめんと云ふやめと是と殺れん成よ
 孫權は孔の如く一掃囊は終り守と云ふと云ふ二の
 囊と披さる負ひ是の玄徳は脱して曰曹操卒万

の勢とて荆及び攻め入り孔明は孫權と云ふと依之
 去徳孫夫人と傳て去月朔の先徳の祭に集るを孫夫人
 八車より去徳の馬より是數千法と云は孫權の命は孫
 と南徐と離れと然と流るる逃りぬ孫權は
 孫武備璋も二百の精兵と掛け二人は捕られぬ知
 りぬ去徳は孫權の案案もて孫權は孫夫人より云言孫
 權が如く追ふ孫權も白君は孫夫人の案一軍をんと
 云々の付向より又一孫權は孫夫人の案の敵の追
 極りその時二の囊と開は孫夫人の案の孫
 夫人追ふれ共と逃りぬ孫權は孫夫人の案の孫夫人
 と孫權は孫夫人の案の孫夫人の案の孫夫人

國羽身長九尺五寸髯の長一尺八寸面八重衣はよく世う
 美算いとも孫劉玄徳の事なり玄徳巴蜀と云く國羽

國羽身長九尺五寸髯の長一尺八寸面八重衣はよく世う
 美算いとも孫劉玄徳の事なり玄徳巴蜀と云く國羽

吳ノ塞外臨宮亭
兵ヲ伏旦要ニ射



寫錦袋七

美髯公面赤ク
狀姿勇ノ如シ眼
鳳ノトク鬚一尺
寸身長九寸五寸
鍔ノ袍ヲ着ス



青龍ノ偃月刀
米

單山
周倉面色ワヤ赤
面丸ノトク鬚
五寸
五寸

寫錦袋七

也。國羽卷（一）之視也。周金志（二）願（三）て曰。天上地下。只此わ
 ぶとの足（四）は保川（五）の時。國羽（六）之と愛（七）し。周金（八）がわく（九）る。其の足（十）は
 と掲げ（十一）。され。國羽（十二）が。以。事。酒。後。は。滿（十三）を。今。亦。之。と。目（十四）く。と。色
 と。其。の。周。金（十五）。と。心。を。持。り。岸。に。立。て。よ。う。と。出。紅（十六）の。旗（十七）。と。れ。く。掲
 げ。國。卒（十八）。が。獲。入。百。余。人。子。舟（十九）。十。艘。失。れ。く。東。江。流。る。又。馳。走。る。國
 羽（二十）。ハ。右。の。羽。小。舟。龍。刀（二十一）。を。掲。げ。た。は。舟。中。の。勇。者。皆。之。舟。と。川。欄（二十二）。に
 伴。り。て。碎（二十三）。ら。れ。た。と。言。ひ。て。曰。く。吾。等。と。是。非（二十四）。と。滿（二十五）。を。ハ。悲（二十六）。しく。ハ。故。回
 乃。悔（二十七）。と。傷（二十八）。み。し。他。日。荆。刺（二十九）。は。結（三十）。と。一。會（三十一）。と。ん。ん。小。兒（三十二）。と。持。つ。る
 が。わ。く。お。し。く。岩。風。過（三十三）。と。出。た。れ。ば。為（三十四）。と。く。ら。の。漏。り。と。は。り。け。さ。る
 呂。蒙。甘。寧（三十五）。の。内。に。出。く。バ。魯。肅（三十六）。が。殺。れ。れ。ん。と。極。是。兵（三十七）。と。制
 して。出。た。國。羽（三十八）。が。船。ハ。風。小。舟。と。な。り。て。去。る。れ。バ。魯。肅（三十九）。は。危（四十）。く
 一。之。懼（四十一）。と。碎（四十二）。ら。れ。し。く。針。後（四十三）。の。あ。ら。は。は。是。非（四十四）。と。不。浄（四十五）。と。の。縁。橙（四十六）。子。の
 と。告。げ。ま。く。荆。刺（四十七）。と。攻。め。と。攻。め。と。謀。り。て。小。舟。も。魯。操（四十八）。攻。め。の。心。と。之。と
 以。ん。是。汝。防。ぐ。る。と。計。り。れ。



龜臺金母

後漢降武帝
 殷母進蟠龍
 武帝自食其
 二帝欲留後母
 昆此非世間所有
 三千午一寶耳偶



東方朔於廬間窺之母指曰此兒已三偷吾桃矣然爾朔卒歲下
 一毛髮必死也

我和漢終南山の窟とて公を養ふに終つたりの暴烈とて若を佛と道成
 學を突多し一日父子僅曉の謂く曰是客也凡と翌日果て一人の
 身長五尺周三尺首其半あり細衣紛と執り鼓鞀して大笑る
 耳と侵して劇談と多く人面の傍に驚愕して庭とくた孰視くと和漢の
 謂て曰此泰山若所の邪と曰汝の念平て去る和漢曉と謂て曰此上帝の
 臣と戯れくらり泰山若所の字演終く宿る也暝日向と先生の言

と聞ふ其と泰山
 老師の後母と

旅とてしも有身
 死とていと

始とて知
 僕後とて

而と知

老は善若今ふ六人飲



邪和璞

崔曙





巨靈人

八仙人内

大カ神通の人ガリ

有丈和集よ

巨靈山と傳

て能く

とわり又

白虎と毫

エミ

白虎仕立ゴフシ
章スミ



吳猛 字世雲

都江之濱の村に

彼風大に吹く

白羽扇を以て

水と攪る

後亦白藤車

弄

天の界



陳楠 字東

披髮して月を乃と教百里二の

大義法と云

波の流る舟と

波を以て

智の

像を

著る

此を以て

ほゞ

寫



通玄先生 八仙内

ひさごより駒と
ぶと樹のり



陳楠 八仙内

嘗て蒼梧より那人雨を招く術を授け
て傳へたる龍と還る法を以て雷雨交作
す洪幹あり

龍と
術と



何のちねかひつてとどかば来れ女中のけしき御前へまゝ茶と質
 年甲余めて候肩を肌體に擲贅とせし馬元と云ふもの夏月之
 隨く團圓には出で候也第ふ俗と元因く體と負ハならん人轍言
 元處ふ返さる候俗に午く夜と看く歩ハ元亦く掛と候笑
 て曰子適又我もかろく乃元と良して酒肆より飲む茶一盃と云ふ
 与へく曰是と服せり哉百歲かんとはり後乃た

後の男より

才の女

市や

茶の質と

んろ

と云

馬元



候先生

孫博

好く書と懐こ
道とよあはれ
あまふりて大
れえり
せぞ
ひあ
とほ
夜不泊
山間不登
か
穴のわ



張九哥

定は慶曆年中よ衣師の居りしを侍も幸多し者となりて。張九哥
奇た嘗て居く身よ欲は後主を見と曰き。林公の命を承りて。前
小技わりの主と候。いん所ら羅とを重畳に

剪て襟の状と
天目と
天目と
天目と

海の藻の頂て

之と海ハ坊

身の後て

えの羅と作る



費文禱 字子安
 道とぬぐひ仙とたゞり偶に友幸氏の酒飯のゆる酒とのひ辛後巨の鯛と兵
 へ飲ひ明日又事も幸後幸とめしとて是より飲ひてしししと飲ひて
 初乃幸に潤くと白多酒飯と負今ぬく酔とて構のほどをへ酒の一の
 鶴と圓く曰客有り飲さき
 他と拍七秋
 あめよ鶴
 必と下り
 舞と後
 客と之飲肉よ
 鶴呆と強死
 しくまふ回旋死
 樹曲音律よ
 中る遠近集と



何れと問幸氏
 謝と曰先生の黃
 鶴と圓の國と百俵と
 獲ちておの謝せん
 子安笑て曰何ぞ毛なる
 身んぢと連と
 頃更めて白と下りたる圓
 危く子安の事と
 又幸でその幸氏その事と建
 黃鶴橋くんく



黃鶴仙人

伏レ貴長房

ナリト云神仙傳

壺公遺費

長房歸以之

竹杖与之騎レ

長房杖ニツテ

忽然トレテ家

ニ皈ル竹杖ラ

投レ葛波而

此ラカエリレ

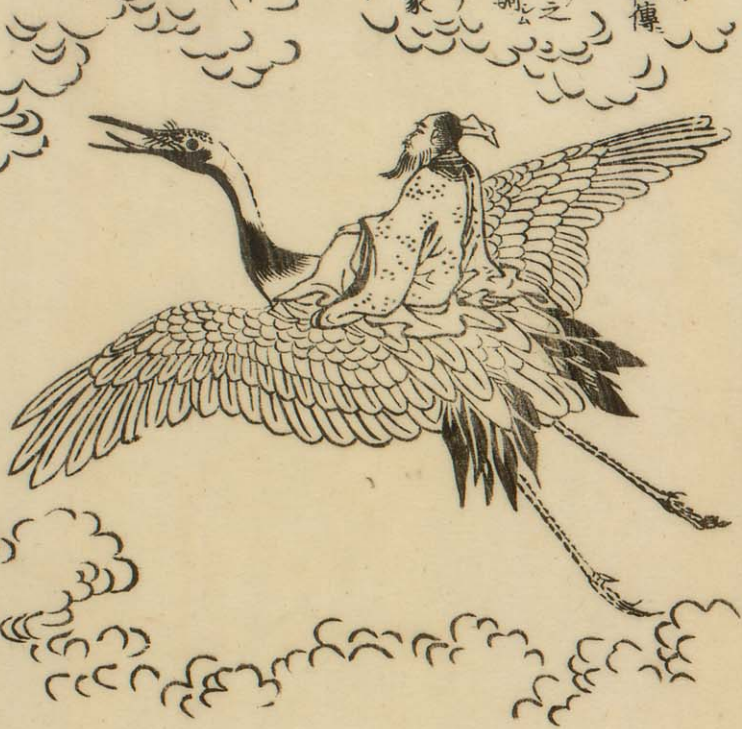
バ青龍ナリト

然レバ費長

房ニアラス

費文飛行

ノ圖ヲアヤミレ



欽